

【平原誠之】に国境なし

ピアニスト 平原誠之さん
元マネージャー 中根弘昭

2015年3月、私はエルサルバドルを訪問しました。目的はピアニスト平原誠之さんが、日本・エルサルバドル外交関係樹立80周年記念イベントに招聘されたからです。

3/20 国立サンタ・アナ劇場(席数700)と翌日プレシデント劇場(同1400)で行われたコンサートは、いずれも超満員!!あの時の地響きのように伝わってくる万雷の拍手と歓声が降り注ぐ体験は、私は人生の中であの時だけだと思っています。何故なら演奏に耳をそばだてていた聴衆によって1曲演奏が終わるたびに、その波が押し寄せてくるのですから。おまけに聴衆が感激のあまりスタンディング・オベーションを繰り返したのは前代未聞の出来事だったそうです。※両会場とも入場者数の最高記録(当時)と伺いました。



【演奏曲目】

第1部

1. 赤とんぼ ～ 浜辺の歌
2. ノクターン第2番
3. 幻想即興曲
4. 梅たたずむ思い
5. 愛の讃歌
6. 描写組曲「火の鳥」

第2部

1. いのちの尊さ
2. オペラ座の怪人
3. エル・レロ (時計)
4. 地上の星
5. アルハンブラ宮殿の思い出
6. パガニーニの主題による変奏曲



アンコール：アメージング・グレース、エル・トリート・ピント（牛の角の首飾り）

演奏曲目の1曲である「地上の星」は、日本で大ヒットしたNHKテレビ「プロジェクトX」のテーマ曲（作詞・作曲：中島みゆき）です。エルサルバドル国营放送では、この番組全話をスペイン語に訳して放映したのち、エルサルバドル版プロジェクトXを150話制作して放映したそうです。だからエルサルバドル国民は、この曲が大好きで日本は好きな国の一つなのだそうです。

また、アンコールの2曲目「エル・トリート・ピント」はエルサルバドル民謡で、始まるやいなやオールスタンディング・オベーション、手拍子、そして大歓声の嵐。平原さんが頭に指で牛の角の真似をしているポーズも大好評でした。



いつも平原さんは自身の内なる声をピアノの音色に託して演奏しています。音楽は言葉を超えるもので「音楽に国境なし」とよく云われますが、さらに「平原誠之に国境なし！」ということを証明してくれました。

今年から彼をサポートする立場を離れましたが、応援する気持ちに変わりはありません。一人でも多くの方が彼の音楽を聴き、世界が彼の存在に気付くことを願ってやみません。

最後に訪問時に宿泊したシェラトンホテルスタッフの話の一つ。出かけた先でシャツの左袖を引っかけて破いてしまいました。そのままクリーニングに出して受取り、日本に帰国してから次にそ

のシャツを着た時に気付きました。縫って補正してあったのです。

※「牛の角」に引っかけたのかも？

自分は“破れているのもファッションさ”と強がって腕を通しましたが、さりげなく縫っていた
だいた遠く離れたスタッフを思い感謝の念を送りました。今も私は人の思いも国境を越えると信じ
ています。



中根弘昭（なかね ひろあき）氏（67歳）

- ・愛知県の地元信用金庫職員として33年間勤務
- ・2014年、55歳で早期退職しピアニスト平原誠之氏をサポート
- ・2026年、マネジャーを辞め「平原誠之 あいち お世話係」併せて「G(ご縁) M(メイカー)となる